

南九州城郭談話会
平成28年2月28日(日)
AM10:30~
於:有明町民センター

上津浦氏の歴史と 上津浦城跡発掘調査成果

天草市役所観光文化部
文化課 主査 中山 圭

中世天草の豪族

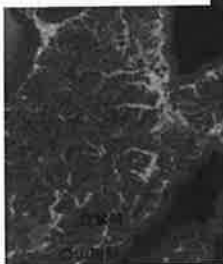
- 鎌倉時代～戦国時代の天草
大小の豪族が各地に割拠…滅亡、統合
⇒16世紀に天草氏・志岐氏・上津浦氏・栖本氏・大矢野氏
天草五人衆
- 天草・上津浦・大矢野＝筑前原田氏 志岐・栖本＝肥後菊池氏
⇒原田種直 大宰少貳(九州次官) 平清盛が大貳のため、実質長官
- 建暦2年(1212)
藤原光弘へ地頭職を補任 志岐氏初代
「佐伊津沢張 鬼池 蒲牟田 大浦 須志浦 志岐浦」



上津浦家のおこり

<14世紀>

- 初めて歴史上に現れた上津浦一族 **上津浦次郎太郎入道**
元徳元年(1329) 鎌倉時代終末期
鎮西探題(北条英時)から、上津浦次郎太郎入道宛ての命令書
が下される
- 「天草蓮種の子、浄種と山田野覚心が
訴訟している、天草島の山田野・鷺崎
(長島町山門野・脇崎)の地頭職につい
ては、覚心に決まったので、命令を沙汰す
るように」(島津家文書)
⇒長島紛争の調停役
…鎌倉時代の終わり、上津浦氏存在



鎌倉～南北朝時代の上津浦家の人々

南北朝時代～室町時代前半 ～南朝北朝を揺れ動く～

- 延文元年(1356) **上津浦左京亮** (さきょうのすけ)
足利義詮(後の2代將軍)より感状(斑島文書)…北朝方として活躍
- 永和4年(1378)
南朝方菊池氏が、藤崎城の今川仲秋(今川了俊の弟)を藤崎城一方の衆
大矢野・河連・久玉・須本等、菊池氏と「なれあう」…南朝方に?
- 至徳元年(1384) **上津浦上総介** (かづさのすけ) 北朝方主催
「犬追物」に参加 宮内(今川家臣)・島津・相良・渋谷・志岐・長島・伊東etc

鎌倉～南北朝時代の上津浦家の人々

- 至徳4年(1387) **上津浦若狭入道** (わかさのゆうどう)
南朝方良成親王から相良一党への軍忠状
「…天草郡上津浦若狭入道城後巻の時、忠節致した事…」
⇒上津浦城がすでに存在 相良氏に攻められたことがわかる



室町時代の上津浦家の人々

<15世紀>

室町時代中頃 ～史料の少ない時代～
15世紀代の天草領主に関する史料はエアポケット状態
その中では、上津浦は比較的史料に恵まれている

- 人吉市観音寺所蔵鰐口 (わにぐち)
文安5年(1448) **上津浦種和** (たねかず) **万寿丸** (まんじゅまる)
銘文「肥州天草郡上津浦庄妙楽寺薬師如来御宝前 文安五季戊辰 三月日 大施主上総介大藏朝臣種和并万寿丸 敬白」
・上津浦が「莊園」であったこと ・妙楽寺が存在していたこと



人吉市観音寺蔵鏡



室町時代の上津浦家の人々②

▼15世紀の終わり頃、人吉の相良氏と八代の名和氏が八代郡高田を取り合う

■文明15年(1483) **上津浦上総介邦種**(かすさのすけくにたね)=万寿丸?
10月 佐敷で相良為統と会談 12月 相良を助け志岐・栖本と八代古藤城を落す
【求麻外史】 文明16年(1484) 菊池重朝から人吉家臣 税所式部への手紙
「八代のこと、本来の主(名和顯忠)が退去した上は、当家(菊池市)に味方すること
を条件に相良氏が知行していれば、上津浦上総介に申し伝えた」【相良家文書】

- ・相良氏と同盟関係
- ・天草衆の外交窓口としての存在



室町時代の上津浦家の人々③

▼明応8年(1499) 相良為統と菊池能運、豊福で合戦。天草衆、相良を裏切る。相良氏は八代や水俣も失ひ、人吉へ。明応9年 菊池氏家老隈部氏が内乱を起こし美樺を握る。菊池武運(能運)は、島原の有馬氏へ身を寄せて再起を図る。

■明応10年(1501) 7月5日

菊池武運より**天草一揆中へ**

「豊福・小野(宇城市)」を与える
との手紙【志岐氏文書】

7月中旬 天草一揆中対応協議

集まったのは、

志岐氏・上津浦氏・

宮地氏・天草氏・長嶋氏・

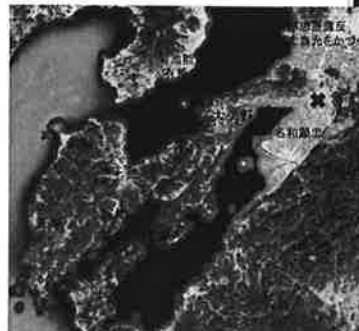
大矢野氏(代理:合津氏)・

栖本氏(代理:鏡氏)・

久玉氏(代理:廣瀬氏)の8家

当主はこの時も

上津浦邦種と推定



戦国時代の上津浦氏

■文亀3年(1503) 菊池武運、相良氏の八代奪還に協力。天草に檄文(協力要請)を出し、天草八城主が来援<志岐・栖本・本土・上津浦・深江・富岡・大矢野・長島>(天草・久玉・宮地が不在)【求麻外史】

「舟師を發して来援す」=水軍を仕立てて 相良氏八代奪還 菊池武運復権もすぐ死去

<16世紀>

天草内で覇を競う時代へ

■永正2年(1505)差出人不明、宛名は宮地三郎・長島兵部・栖本右京・大矢野十郎
「天草大夫跡の内、本砥・嶋子の事、志岐・上津浦へ去年約束したが、訴えがあったので
まず嶋子の事を先にして、**上津浦上総介**へ渡すとの上意である。三郎丸(天草
氏?)が没した時は、「上意」であることを伝えるように」【志岐文書】 おそらく菊池氏から
のお礼

・島子村の所有権が天草氏から上津浦氏へ

・上総介は、**邦種**であろう

これ以後、天草各氏は諸島の中で、合戦をくりかえす

天文元年(1532)の上津浦合戦

■天文元年(1532) **上津浦治種**(はるたね) 上津浦・相良同盟

6月13日 天草・志岐・栖本・大矢野・長嶋氏、合同で上津浦に動き、着陣(以下[八代日記])

6月16日 八代から、上津浦治種を支援

相良氏増援第1陣出発

6月26日 第2陣出発

7月1日 上津浦で合戦 相良六郎討死

上津浦治種親類殿原中間28人討死

7月9日 「上津浦之城つめ候」

(相良氏援軍による城の留守居)

7月11日 第3陣出発

7月18日 第4陣出発

7月22日 天草・志岐と申の時刻に戦う

8月4日 治種、佐敷に行き「合力之御礼」

8月7日 治種、八代へ行く

8月20日 上津浦へ帰着

・相良との強い協力関係

・合戦の勝敗は不明も、お礼行脚から治種

は無事で、上津浦も平穏

・上津浦城の守りを同盟相手に任せる



相良との外交・棚底事件

■天文12年(1543) **上津浦千手殿**より家督祝儀、鷹戸氏八代に着く
上津浦孫次郎、相良義滋より右衛門大夫の名をもらう

■天文13年(1544)

2月2日 上津浦親類中、棚底下城

2月4日 上津浦親類中、上津浦下城

2月6日 (上津浦)種教上津浦下城

▼戦いかどうか不明 お家騒動か?

■天文15年(1546)

10月上津浦殿(右衛門大夫)

相良晴広家督相続祝いに、平江氏派遣

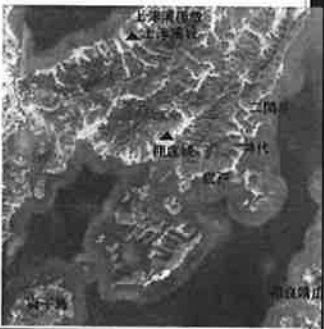
■天文18年(1549)

上津浦、鷹戸氏を使者に、晴広へ伺候

・人物同定が困難

千手=治種?...鷹戸?

孫次郎=右衛門=種教?...当主?



上津浦以外の天草勢、相良へ接近

☆ライバル栖本氏ほか、天草各氏が相良氏へ急接近

■天文13年(1544) 大矢野氏より使者瀬戸采女

11月栖本殿、湯浦へ着き「官途所望之由」。左近将監を望むも「兵部大輔

となる。引き出物は五匁文と太刀⇒栖本も相良氏傘下に

■天文14年(1545) 大矢野に明船着く

■天文15年4月 栖本より使者を遣わし、「有馬引隔心之由」...有馬氏と手切れ

10月 晴広へ家督相続後、義滋死去 栖本兵部大輔、お悔やみに来る

11月 大矢野殿より次代祝い吉野方、天草殿よりつち方、次の祝儀

12月 天草殿・和泉(島津)・親興(馬子木)・重賢(田嶋)使僧、同座でゆつけ

※この頃、相良氏は、大内氏の道明船(ラスト)の警固(パトロール)仰せつかる

■天文16年5月 佐敷で天草尚種と会見 尚種から頼当・はいて進上

■天文17年 相良晴広、天草招待(接待)

3月24日天草尚種 相良晴広を招き、ししか島(獅子島)で会見

3月25日栖本殿 舟で海上に上つら(綱)引かせ、かめ(ガネ?)25節もたせ

3月26日二間斗にて大矢野氏と会談

4月14日天草殿より名馬「鎗鈴」進上

11月 大矢野氏・長島氏八代に来る

上津浦・栖本抗争①

- 前哨戦
- 天文20年(1551)
- 7月8日 天草・上津浦・大矢野が栖本を攻める
- 有馬から、上津浦への援軍渡海。大野・安徳・南条、これは栖本に動く間の留守番
- ・外交は有馬ヘシフト・上津浦城は雑多な勢力が留守番に
- 11月 上津浦から使者、神代美作守八代に着く
- 天文21年(1552) 11月16日 栖本殿八代に来る(18日帰る)
- 11月23日 上津浦殿上村常刀郎で晴広と会合 刀を双方から贈答

- 弘治2年(1555)
- 6月1日 上津浦勢が、棚底を攻め、棚底の内、藤河柵(かこい)破る
- ・棚底城が栖本の手の中・柵は南九州特有の城郭用語で「砦」・「防御性のある集落」・藤河柵は、現倉岳町浦の藤川・家久栄周辺
- 6月29日 栖本勢、上津浦領地境を攻め、クサツミというところで、合戦。栖本衆18人、打ち取られる。佐敷から、相良氏の援軍、栖本へ渡る。

上津浦・栖本抗争②

- 弘治2年(1556)
- 7月 4日 上津浦勢、栖本の浦々(各港湾)を攻め破る
- 7月14日 佐敷衆、栖本から戻る。田浦名代、栖本出陣・栖本の応援は交代制
- 7月28日 栖本に二見衆、番に立つ・日奈久
- 8月25日 上津浦勢、栖本馬場を攻め破る
- 8月26日 栖本に湯浦衆番立候
- 9月14日 上津浦勢、鷹戸大道を攻め破り、6人打取、20人捕虜
- 10月 6日 津奈木衆、栖本番に行く
- 10月26日 八代から栖本番に。上津浦勢、栖本に伏兵。津奈木3名水俣衆1名討死
- 11月 7日 上津浦勢、棚底「さかたぬき」破る。打取5名、捕虜53名、牛馬30匹
- 11月12日 栖本番に、高橋、稻留殿
- 12月 1日 栖本番に、上村又次郎、上村新兵衛尉、深水藤左衛門など
- 12月14日 上津浦勢、栖本を攻める
- 12月20日 栖本で越年番を務めるもの、佐牟田民部、稻留藤十郎、丸目十郎右衛門尉、上村新兵衛尉、深水藤左衛門

上津浦・栖本抗争③

- 弘治3年(1557)
- 1月8日 栖本番、園田又十郎、蓑田六弥太など この番16日に上津浦に伏兵に動く
- 2月7日 天草氏から使者 内容は上津浦を攻めること。使者はショウチウ院、長嶋右近
- 2月12日 有馬氏へ使僧「農寺」派遣 天草・上津浦・栖本の弓箭(戦い)のこと
- 3月29日 田浦から栖本番
- 5月22日 天草氏、定泉坊を遣わす。上津浦と栖本の和平について。
- 7月9日 上津浦勢、栖本の「トマリ」(港) 破る
- 9月19日 上津浦氏、八代へ使僧「訥香院」遣わす
- 10月18日 栖本殿、八代に来る。
- 11月18日 上津浦領の「麻呂師子口」という所で、天草勢・栖本勢、多くの伏兵を伏せるも、両家敗れる。
- 12月3日 上津浦氏、八代へ使僧「為親庵」遣わす
- 永禄元年(1558)
- 3月16日 上津浦から棚底を攻める。嶋子(天草?)から下津浦を攻める。
- 4月2日 天草殿衆、上津浦を攻める。天草勢18人討死。

上津浦・栖本抗争関係地図



永禄3年(1560)の栖本城合戦

- 永禄2年(1559) 上津浦重貞(しげさだ)
- 2月7日 上津浦重貞から、年頭書状
- 7月12日 上津浦勢、栖本を攻める
- 10月22日 天草氏領内で、天草・上津浦・志岐による会合 栖本の殿原立見
- 永禄3年(1560) 上津浦・栖本紛争、最大の山場
- 2月19日 上津浦から年頭の書
- 2月26日 上津浦から棚底を攻める。栖本勢3人討死
- 2月30日 大矢野から八代へ使僧「棚底申達之事」
- 9月23日 栖本に着陣するため、有馬勢上津浦へ着く。数200艘以上。
- 9月25日 有馬勢、二間斗に放火
- 9月27日 有馬義貞、大村純忠栖本に着陣、志岐・上津浦も同様
- 9月28・29日 栖本城攻撃。松浦鉄砲隊30名も参戦。相良氏和平を図る(松浦重世伝)
- ・天草初鉄砲戦
- ・有馬・大村・志岐ら鉄砲の威力を知り、キリスト教導入へ
- 11月19日 棚底城のこと、栖本から上津浦へ渡すように相良調停 20日有馬勢戻る
- 11月25日 上津浦、延命院を八代奉行に使僧「ご異見を持って棚底請取申候御礼」

栖本合戦 相關図



永禄後半期の複雑な島内状況

- 永禄4年(1561)
 - 3月11日 上津浦分領地「池浦」(龍ヶ岳町)に、佐敷勢夜襲
 - 3月23日 上津浦殿から手紙、夜襲で捕虜にした船と人を返すことについて
- 永禄5年(1562)
 - 2月26日 上津浦より年頭の使者
- 永禄6年(1563)
 - 5月9日 上津浦から頼房下向にお祝い 御家(相良氏)と上津浦氏の代々の儀伝える
 - 6月26日 上津浦から、使者鷹戸伊勢守
- 永禄7年(1564)
 - 5月18日 上津浦から朝音寺使僧に来る。主旨は、①頼房下向のお祝い、②豊福の火事のこと？、③天草殿から小島子、トキ(御所浦)お帰し候、④代々一味のこうけ給う
 - 6月14日 上津浦から朝息庵、八代に使僧 天草殿一味の由
 - 6月27日 小島子・下砥岐から天草殿に進まれ、今日知行之由
- 永禄8年(1565)
 - 5月1日 (相良の)農寺、天草に使僧 委細は「志岐・栖本残り三人和融之儀」
 - ・【志岐・栖本】対【上津浦・天草・大矢野】という図式にさまがわり

永禄8年(1565)の上島合戦

- 永禄8年(1565)
 - 6月26日 上津浦重貞、古麓城に
 - 6月28日 重貞、相良頼房と会合
 - 志岐・栖本・有馬・和泉(出水の島津義虎)、連合で天草島子を攻める
 - 7月2日 志岐・栖本・有馬・和泉、連合で本砥(天草方)を攻める
 - 7月9日 天草・大矢野・上津浦3人で志柿を攻める。栖本上津浦戦い、上津浦6人討
 - 8月26日 栖本を攻めるとのこと。(相良家臣)深水殿(長智)・東民部・蓼田、本砥へ向出船。トキノアラ口という所に着く(御所浦の瀬口)。
 - 9月13日 上津浦から、栖本之河内という所を攻め、8人打ち取り、鉄砲2丁奪取
 - 9月17日 志柿に着陣 球磨衆(深水ら)、天草衆合同で
- 永禄9年(1566)
 - 4月6日 上津浦から栖本攻め、麦作払う 夜、栖本から棚底 麦刈候をおうこ130追
 - 5月25日 上津浦から使僧かいえん寺、八代に来る
 - この年の記載で【八代日記】終了

島から出て、島津氏の配下に

<戦国時代の終盤>

▼九州は、竜造寺・大友・島津の3氏が強大となる。天草に接する島津氏は、天正5年(1577)に日向から伊東義祐を追い落とし、ますます勢力を広げつつあった。天草五人衆は、ひとまとまりの勢力として認識され、島津氏の豊後攻め、秀吉の島津攻めに従軍することとなる。

- 天正6年(1578)
 - 上津浦氏、新納武蔵守へ勝利の祝のための使僧送る【鹿兒島県史料】
- 天正7年(1579)

天草入道紹白、志岐弾正頼泉・上津浦上総介鎮貞・栖本上野介・大矢野某、この島衆五人と称す城主を出水へ招き、(新納)忠元より篤く申し諭せば、五人とも皆、御家へ御率公致すべき旨、降伏仕られる由【忠元勲功記】

- 天正8年(1580)
 - 鎌田寛栖・新納忠元が計略をめくらせ、島津義虎の元へ、志岐・上津浦・天草を呼びよせ、綿密に軍議。天正8年、数多の船を襲撃し、豚島・天草島と渡り、矢崎城を襲う。【新納家系図中】

- 五人衆はそろって島津氏配下に
- 以後、従軍して各地を転戦(島内での政治詳細は不明)
- それ以前に重貞から鎮貞に改名、大友義鎮(宗麟)偏諱(1字拝領)

島津から秀吉の下へ 転戦つづく

<戦国時代終わり>

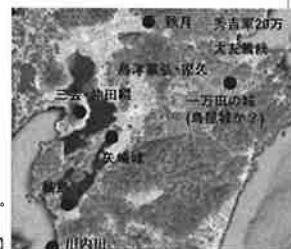
- 天正10年(1582) (上井寛兼へ) 上津浦殿より、歳暮使書預かり候【上井寛兼日記】
- 天正12年(1584)

3月 島原半島 沖田畷の戦い 天草勢も参陣 竜造寺隆信戦死
5月3日 義虎公・種子島殿・天草嶋中衆、彼らを以て島原三合の御番【上井寛兼日記】

▼天正14年(1586) 島津氏、大友攻め。豊後府内焼失。秀吉が大友を援助。

- 天正15年(1587)

3月 島津敗走。天草五人衆は、豊後の「一万田殿の城」に孤立。岡城主志賀親次(ドン・パウロ)に救われる。「キリシタンのよしめで天草久種のみ助けよう」というパウロの申し出に対し、「久種は五人は一心。自分だけ助かるわけにはいかぬ」と拒絶。「では、全員救う」としたパウロの英断で、五人衆は九死に一生を得た【フロイス「日本史」】
・大矢野・栖本は、これに感激しキリシタンへ改宗
4月4〜9日 五人衆、秋月で秀吉に見え、降伏。川内川へ攻め下る秀吉勢の水先案内人として、船を出し功あり、本領を安堵される【大矢野家譜】



天正天草合戦

- 天正16年(1588) 肥後南部は、キリシタン大名小西行長の統治
- 天正17年(1589) 行長、宇土城の築城に際し、五人衆へ賦役を課す
 - ⇒「行長私普請は難成 私式も似合のかき上城をも持 手前にも普請繁多【清正記】 かき上げ=土塁 最新の石垣城郭を知りつつ、土づくりの城にこだわる姿勢。
- 小西行長勢、海路から志岐城を攻める。伊地知文太夫3千が敗れる。
- 加藤清正、栖本・大矢野に後詰の通行許可を要請も、五人衆は志岐へ援軍。
- 「一軍、上津浦上総之助手軍兵 右の二番備 一、大浦彦四郎重常 二、下津浦六兵衛景春 三軍将、上津浦四郎種貞 其の勢六百【大矢野文書】」
- …結果、志岐氏は滅亡、天草氏は本渡城が落城するが、本砥河内浦は安堵
- ・ここでの上総介は「種直」のことか？
- ・四郎種貞は、当主の近親と推測

日本最後のキリシタン改宗領主

- 最後の当主 上津浦上総介種直 (たねなお) 洗礼名：ホクロン
- 「(上総介重貞の子) 上総介種直之時、家衰える 天正十七年上総介某、小西行長に反し、志岐頼泉に仲間す。後、復た行長に降る。然も名書かず、種直が未だ詳らならず。【天草一党五家】」
- 「天草諸島の殿のうち、4人はキリシタンで上津浦殿と呼ばれる五人目の殿が残っている。上津浦の島は先の上津浦殿と栖本殿とで分割されており、かつて志岐殿はそこに島子と称する城を持っていた。この城は、戦(天正合戦)でアゴスチノ(行長)の支配するところとなり、その統治を一人の徳の高いキリシタン貴人(武将)にまかせた。隣人救済に熱心だった彼は、…アゴスチノからも上津浦殿の事を一任されていた。この殿は、9歳か10歳の子供であった…少年の母親及び上津浦の代官を説得して進んで受洗するように、一方で上津浦殿の姉が栖本殿の長子であった夫とともに働きかけた。…(殿は) 他の主だった人とともに教理を聴聞することを決心し、…母親、息子、娘、代官はやんごとなき他の多くの人々とともに受洗した。…この島にはデウス(聖霊)がこれほどまで働きかけたので、またたくまに3500人がキリシタンになった。【イエズス会1590年報】」
- 「この殿は当時、9歳か10歳の子供にすぎず、その父(重貞)はすでに数年前に他界しており【フロイス「日本史」】・内容はほぼ「年報」と同一



まとめ 上津浦家の人々年表

1326	上津浦次郎太舟入道	信濃前田の清平
1354	上津浦左京亮	北畠時以経親
1384	上津浦中絶介	北畠時義經の長男
1387	上津浦若狭入道	坂氏の公卿
	〇〇〇	
	〇〇〇	
1448	上津浦種和	秋葉宗良の三子
	↑	
	上津浦頼朝の子・遠江守頼朝	
1493	上津浦邦輝	頼朝と外交関係に深く
1505		
1527	上津浦治種	河尻上津浦頼朝を越つ
1543		
1563	上津浦種教	頼朝の孫・大少
1566		
1559	上津浦重貞	頼朝・忠子・上津浦重隆 頼朝の弟の子・頼朝
1587		
1599	上津浦種直	中山ノリツネなる

- 後世の「[天草一党五家]では、「上津浦入道并勢権貞(初代)から、権直まで11代12代」。
- ⇒ 左の年表と概ね合致
- 邦耀以来、相良氏との関係維持に努める
- ⇒ 勢力伸長に積極的
- 重貞の代に、おそらく支配権を最大
- 政治や生活は不明なところ多い
- ⇒ 潮底城跡から貴重な遺物が多く出土。上津浦城の調査でも遺物は割合見られる。
- ・・・種和・邦耀時代に遺物が多い
- ⇒ 生活の質、城づくりの工夫などは今後の発掘調査で考える課題

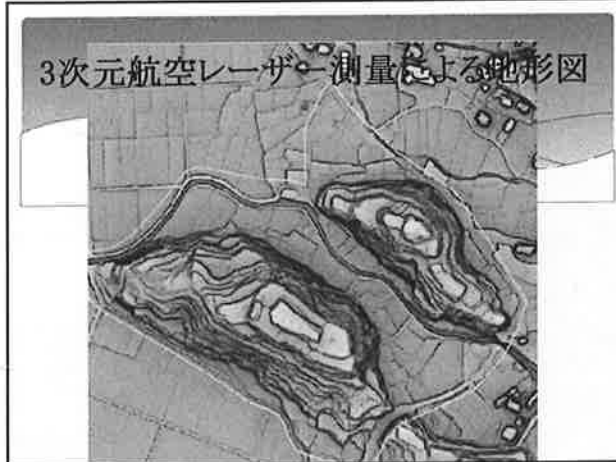
上津浦城跡の発掘調査のいきさつ

- ・平成21年度、倉岳町棚底城跡が「国指定史跡」に指定。
→文化庁から、「関連城郭の調査と将来の追加指定」の指導
- ・平成23年度、「棚底城跡保存管理計画書」に上津浦城跡の調査計画が盛り込まれる。(24～26年度の調査)
→天草五人衆の居城(志岐城、河内浦城、栢本城、上津浦城、大矢野城)で一番、残りが良く、棚底城ともゆかりが深い城であるため、第一候補に。
- ・平成24年度、第1次発掘調査。主に、南側の「伝本丸」を調査。
- ・平成25年度、第2次発掘調査。主に、北側の「伝二の丸」を調査。
→良好な残存状況がわかったため、城内の調査にムド
- ・平成26年度、3次元レーザー航空測量による地形図作成と正覚寺キンタン墓碑の測量調査

上・津浦城跡の縄張り図と発掘調査区



3次元航空レーザー測量による地形図



伝本丸 T01トレンチ

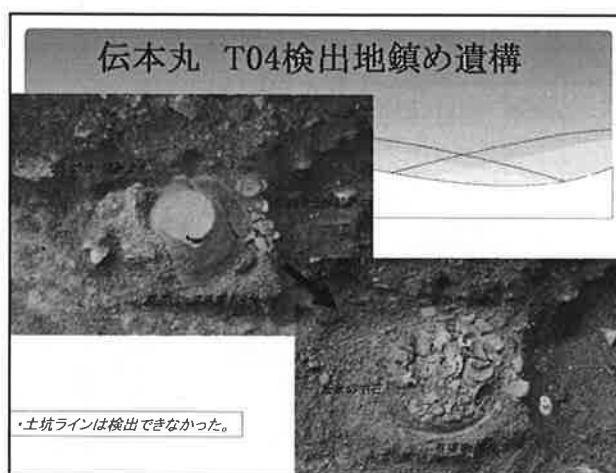
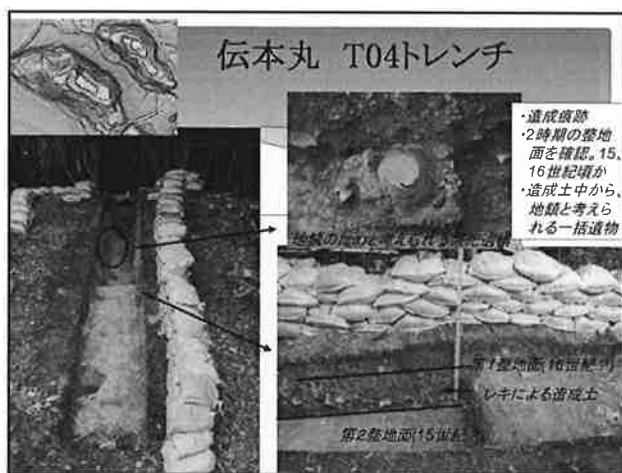


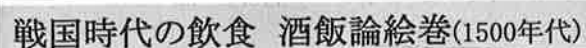
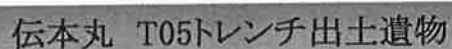
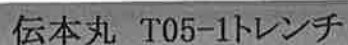
- ・岩盤を切り土した整地
- ・ピット(穴)は、柱穴として、並ぶか不明

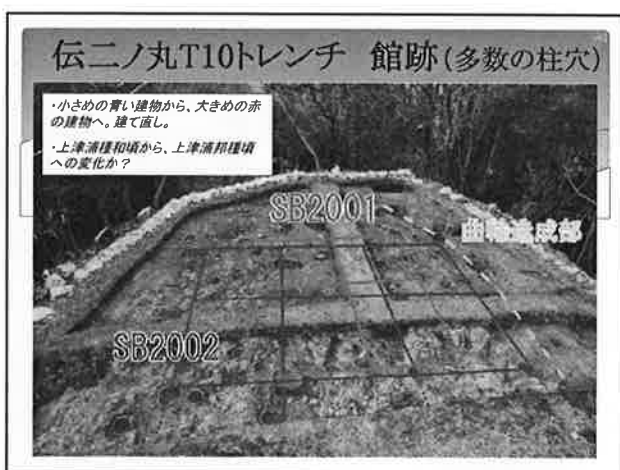
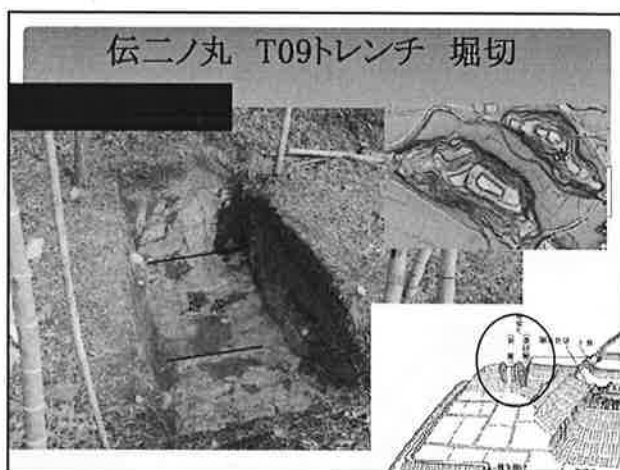
本丸 T02トレンチ

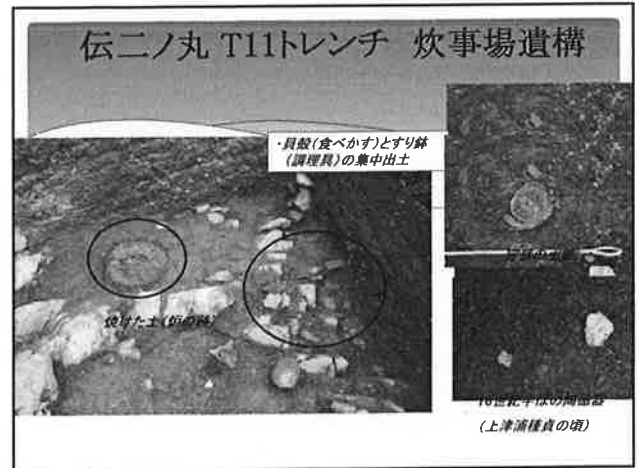
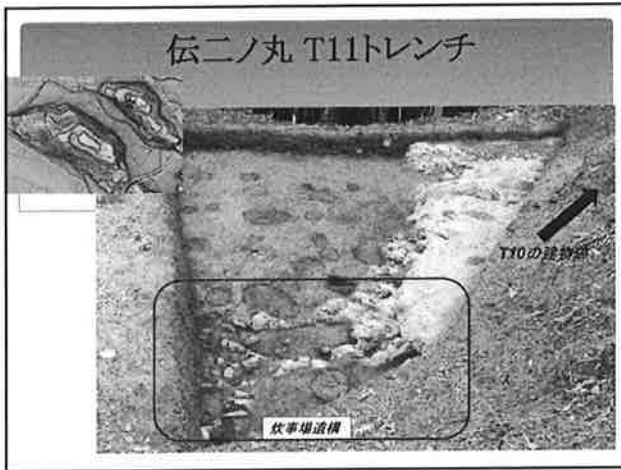


- ・岩盤削平による整地
- ・ピットは径15cm程度の小型のもの
- ・曲輪端では並び、横列の可能性有り
- ・北側段落ちは、土師器を含んだ土層で、中世の造成。虎口の通路か？









上津浦城跡2ヶ年の調査でわかったこと

① 伝本丸と伝二ノ丸が同じ時期に、城として機能していたこと

→完全に独立している関係は珍しい。

…上下関係がうすい。半独立??

・天文12年(1543) 上津浦千手殿より家督祝儀、鷹戸氏八代に贈く

上津浦孫次郎、相良義滋より右衛門大夫の名をもらう

・天文13年(1544) 2月2日 上津浦親類中、棚底下城 2月4日 上津浦親類中、上津浦下城
2月6日(上津浦)種教上津浦下城 ▼お家騒動?

② しっかりとした建物跡(伝本丸T08、伝二ノ丸T10)と生活痕跡(T11炊事場)があったこと

→棚底城跡などと同じ、天草の城の特徴が追認。

→全国では、大きく、手の込んだ城でも、「住む場所ではない」ことがある。

…日常空間(居館)と限定空間(城…合戦の時だけ使う)の分離…が無い

上津浦城跡2ヶ年の調査でわかったこと

③ 貴重な遺物・遺構が出土したこと



酒を注ぐためと思われる青花釉というレアもの、土器を使った地鎮めの儀式跡など、貴重なものが出土。かなり狭い範囲での調査で出土、ということは、いずれ広く発掘できれば、また新たな発見があるものと思われる。

④ 15世紀頃の活動が活発であったこと

出土遺物の多くが15世紀代の青磁碗などで、16世紀代のものは少なかった。文献記録は16世紀中頃の戦いの記録に偏るが、それと同じころの遺物は少なく、

上津浦城跡2ヶ年の調査でわからなかったこと

・期待をしていた、キリシタン関係の遺物などは、発見されなかった。それどころか、16世紀後半の遺物もほとんどなかった。今後の解明課題。

→上津浦種直が、1590年にキリシタンとなる。

上津浦城跡の価値を深め、知る



平成26年3月 発掘調査現地説明会

平成25年11月 文化庁調査官による指導

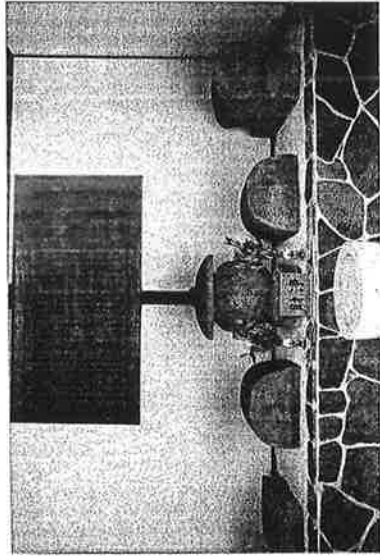
・平成27年度中に、発掘調査報告書を作成予定

・将来は、セットでの国指定史跡へ向けて、歩みを進めたいところですが、財政上の問題から、公有化・史跡整備は、厳しい道のりです。これからもご理解・ご協力をお願いします。





正覚寺キリシタン墓碑群

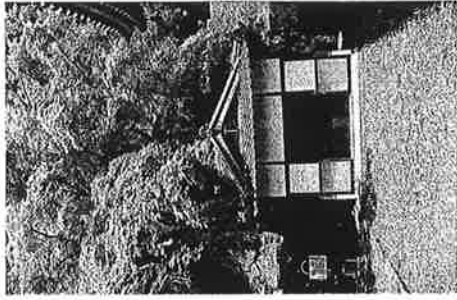


所在地

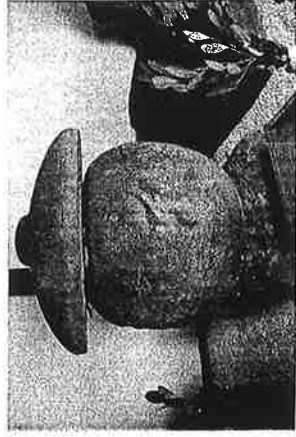
熊本県天草市青明町上津浦 正覚寺

歴史経緯 国明山正覚寺は、豊原・天草一揆討伐後、代々鈴木重成によって正保3年(1646)に創建された。本来、この組上津浦城主ホクロン殿が建立したという南蛮寺の伝説は、寛享18年12月の熊教令で破壊された跡地であったという。すなわち、天草における一揆の拠点であった上津浦古城が、およそ寛文寺が建つ山腹斜面からは江戸末に大型メダイ(コザワリ)の子銅牌)が発見されるなどキリシタン史に關わる遺跡の中には、寺の石造物で、明確にキリシタン墓碑と確認される墓碑は、寛文11号碑・2号碑と写真右端の角柱状自然石の上に建てられている半円柱形石碑(3号碑)である。

現状 墓碑は、昭和60年1月に改築のため本堂を焼失した際、床下から出てきたものといわれ、連棟当時の状況は不明である。ただ、現在キリシタン墓碑2基に挟まれた中央に五輪塔の形(笠・方形基壇は別)がおかれているが、この水輪は形態(十字の彫出)から14世紀までは遡るものと思われる。この水輪がキリシタン墓碑と同じ場所、同じ状況で出てきたのであれば、本来、当時は中世の埋葬地として開発され、その後のキリシタン時代にキリシタン専用墓地として形成された可能性が高いように思われる。

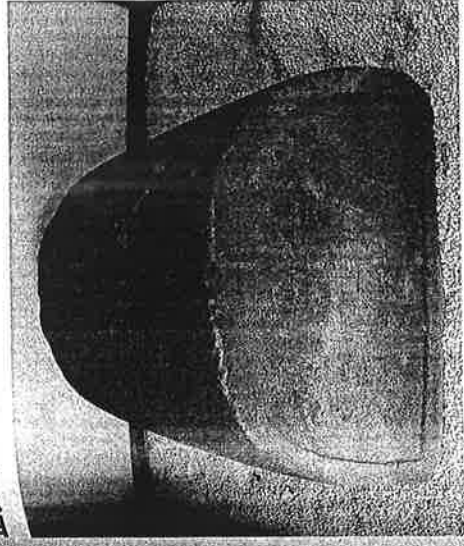


(本堂の手前に保存・展示されている)



(五輪塔水輪)

正覚寺墓碑群第1号墓碑



形式 半円柱形柱状石碑

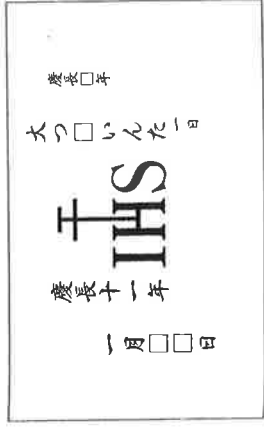
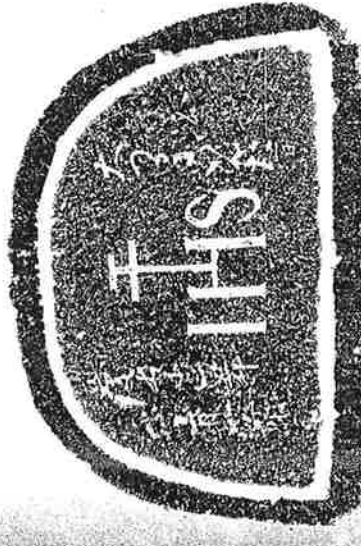
石 材 砂岩

寸 法 小口幅500 背高33.5 全長53.4

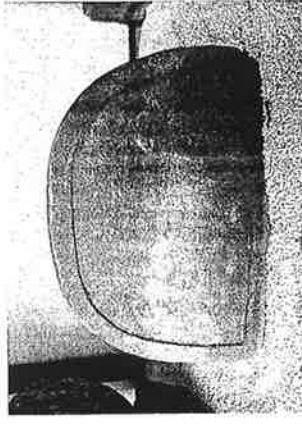
発 見 慶長11年(1606)と判読

文 字 大つ□いんたノIHSと刻彫。□は不明。記本参照

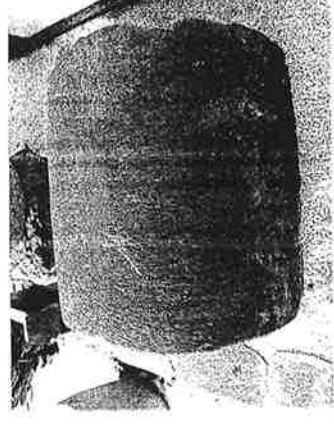
年「本文「た」の下に「一日」と刻彫。□は不明。記本参照



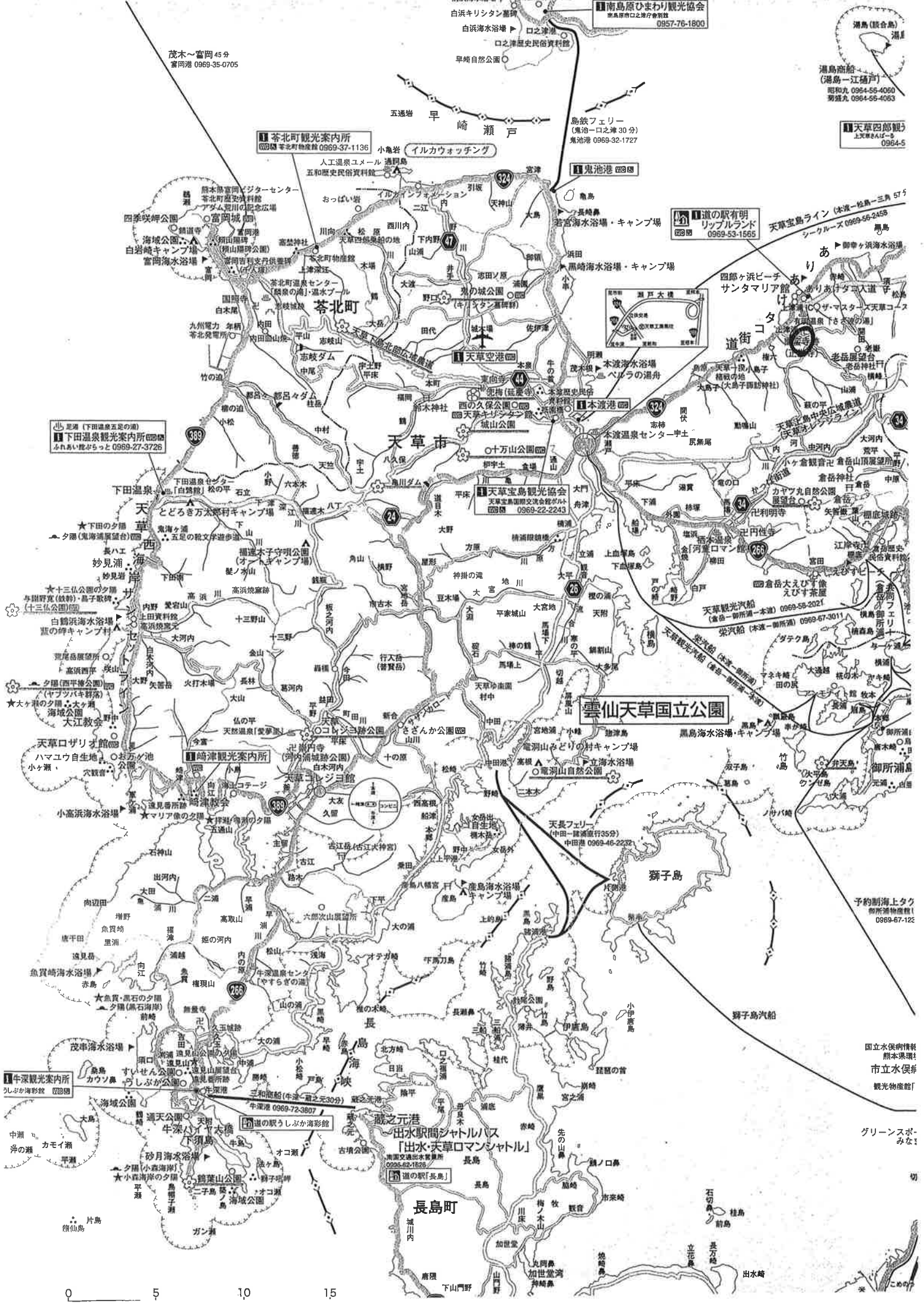
解説 日本最古類に属する墓碑が熊本県を代表するキリシタン墓碑で、小口正面を幅約3cmの溝帯で全周させ、右側に洗礼名(「大つ□いんた」)、中央に「IHS」と「H」上に罪懺十字架。左側に年月日(「慶長十一年ノ一月□□日」)を印刷する。「IHS」の上下端には右端から割付け線が走っている。また、右側洗礼名の最後の「た」は、その割付け線にあることから、2号墓碑と同じく、最初に「IHS」と罪懺十字架を彫り込んだ後に洗礼名と年月日を刻んだものと考えられる。ただ、洗礼名の前に「慶長□年」、「大つ□いんた」の「た」の下に「一日」と陰刻されている。年の方は薄く削られているが「度」の略字は明確に読み、「一日」も鮮明に残っている。この紀年銘が本来の墓碑の紀年銘であれば、慶長11年に再度墓碑として転用した可能性がある。万が一そうであれば、最初の墓碑は、現在の判読でいえば、慶長の一年代の紀年銘をもっている。半円柱状で最古の紀年銘墓碑が慶長9年の土手之元第1号墓碑であることから、本来の正覚寺第1号墓碑は、日本で最古類に属するキリシタン墓碑の可能性が高いことを付記しておく。なお、小口背高に対する横幅の比率は0.67であり、全長に対する小口横幅の比率は1.07である。慶長9年出土手之元第1号墓碑(0.89 1.89)と比較して背高は低く、上部を押しつぶした形状をしている。また、全長が非常に短く、全長では小口横幅が50cmとあることから、あるいは成人用とも思われる。裏面小口面は、粗面で磨損がそのままだけである。



(正面小口)



(背面右側(小口正面は画像左))



茂木〜富岡 45分
富岡港 0969-35-0705

■北北町観光案内所
0969-37-1136
人工温泉ユメル 湯野島
五和歴史民俗資料館

イルカウォッチング
小亀岩

■南島原ひまわり観光協会
南島原市口之津庁舎内
0957-76-1800

■天草四郎観
上天草市江橋戸
0964-5
昭和丸 0964-55-4060
新丸 0964-55-4063

■道の駅有明
リップランド
0969-53-1565

天草宝島ライン (本渡〜松島〜三島 57分)
シークルーズ 0969-56-2458

■下田温泉観光案内所
ふれあい館がらつち 0969-27-3726

■天草空港

■本渡港

■天草宝島観光協会
天草宝島観光協会がらつち
0969-22-2243

雲仙天草国立公園

■崎津観光案内所

■牛深観光案内所
ししが海影館 0969-72-3807

■道の駅うぶが海影館
0969-72-3807

■道の駅「長島」

予約制海上タクシー
御所浦物産館 1
0969-67-122

国立水俣情報
市立水俣
観光物産館

グリーンスポ
みな

